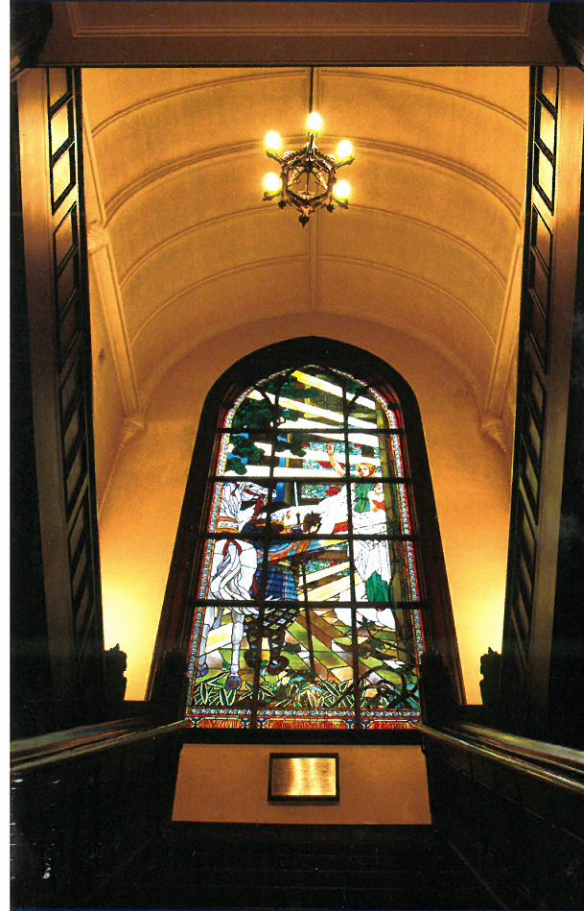


# 会 報



©慶応義塾

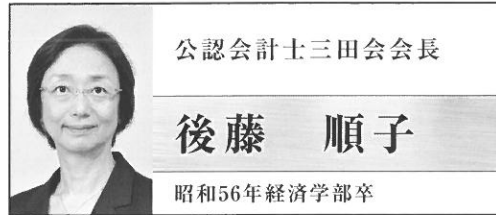
公認会計士三田会

# 会報

## 公認会計士三田会

### 目次

ご挨拶 .....	1
公認会計士三田会会長／後藤順子	
公認会計士三田会の皆様へ .....	2
商学部長／金子隆	
日本公認会計士協会会長に就任して .....	3
日本公認会計士協会会長／森公高	
日本公認会計士協会 東京会会長からのメッセージ .....	4
日本公認会計士協会東京会会長／柳澤義一	
公認会計士としての志 .....	5
河内 舜	
スタートラインに立って ―これから目指す姿― .....	6
小野寺 亮二	
よろしくお願ひします！ .....	7
駒 貴彰	
公認会計士試験の状況 .....	8
連続39年間、合格者数首位を堅持	
公認会計士試験 大学・年度別合格者数一覧表 .....	9
総会／春季研修会／新人歓迎会／秋季研修会 報告 .....	10
ゴルフ報告 .....	11
役員一覧 .....	12
公認会計士三田会・会則 .....	13



## ご挨拶

2013年3月より佐竹前会長より会長職を引き継ぎました、昭和56年経済卒の後藤順子と申します。公認会計士三田会のご縁で、昨年末に「塾」にインタビュー記事が掲載されましたので、ご存知の方もいらっしゃるかもしれません。幹事の方々に支えていただき、微力ながらどうか会長職を務めております。どうぞよろしくお願い致します。

アベノミクスによる金融緩和、景気刺激策により、2014年は久々に明るさの兆しを感じる年明けとなりました。特に、東京オリンピックの開催決定は、官民双方の投資マインドの喚起、何よりも将来に向けての明るいムードの醸成に大きく寄与しているように思えます。とはいえ、アベノミクスの成否は第三の矢である成長戦略をいかにダイナミックなものとし、スピード感をもって実行に移していくかにあり、その点については、規制改革、社会インフラ整備、財源確保といった難しい課題が山積しているものと思われれます。課題先進国と呼ばれる日本がこれらをどのように乗り越えていくかは、世界中が注目しているところです。

公認会計士としての私達の役割が、公共のための存在としての自覚を持ち、資本市場の健全な発展のために、会計、監査、ガバナンスの領域に継続して貢献していくことにあることは言うまでもありません。この専門領域について、社会の信頼に支えていけなくては、存在意義自体を疑われることになりかねません。その上で、私達の持つ独立性、専門性と経験を生かして、社会の課題の解決のため、様々な領域で少しでも貢献していきたいものです。

2013年も、公認会計士試験合格者は塾出身者が最も多かったようです。正確なところは存じませんが、社会で現在活動している公認会計士のうち、相当な割合の方が公認会計士三田会の会員ということになります。私達は、新たな仲間を得て、所属事務所の垣根を越え、年齢の枠も越えた交流を益々加速して行きましょう。それが公認会計士制度の発展にも繋がっていくのであれば、望外の幸せというものです。現在は総会・新人歓迎会、秋季研修会、ゴルフ会、幹事会等が主な行事ですが、会員の交流のために良いアイデアがあれば、ぜひご提案いただきたいと思います。会員の皆様の積極的なご参画をお願い致します。



商学部長

金子 隆

昭和50年経済学部卒

## 公認会計士三田会の皆様へ

公認会計士三田会の皆様には日頃より大変お世話になっております。特に、公認会計士を目指す学生たちへの心温まるご指導ご鞭撻に対し、心から感謝申し上げます。

おかげさまで、平成25年度も120名を超える慶應義塾出身者が公認会計士試験に合格し、大学別合格者数において39年連続で首位の座を守ることができました。こうした輝かしい実績を保つことができたのは、本人たちの努力があったことはいまでもありませんが、先輩たちのご活躍が彼らの励みになっていることと、皆様から適切なご助言や励ましのお言葉を頂戴してきたことのお陰かと思えます。

また、商学研究科修士課程会計職コースをご担当いただいている皆様には、ご多用の中をご出講いただき、実務経験に裏打ちされた高度な専門知識を受講生にご教授くださり、誠にありがとうございます。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

公認会計士を目指す学生と話す機会があるとき、私はできるだけ2つのことを言うようにしています。1つは、最初から試験勉強ばかりするのではなく、せっかく大学に在籍するのだから何か自分の専門分野を作って欲しいということです。そして、そのために研究会(ゼミ)の履修を勧めています。指導教授のアドバイスを受けながら、自分で解明すべき問題を発見し、単なる思いつきではない科学的裏付けのある解決策を探るという思考訓練は、社会人になって初めてその大切さがわかると思っています。彼らの最大の心配事である資格試験勉強との両立は、本人のやる気次第でいくらでも可能だと私は説いています。

もう1つは、将来、たとえ日本の会計制度のもとで働くにしても、グローバルに活躍することを念頭に置いて、在学中からそのための準備をして欲しいということです。あらためて申し上げるまでもありませんが、ヒト・モノ・カネの国際間移動が急速に進んでいる今日、日本の会計制度も国際基準と調和せざるを得なくなっており、会計士の活躍する場も必然的にグローバル化しています。そういうときに、内向き思考の会計士を世に送り出しているようでは、慶應義塾としての責任が問われてしまいます。

商学部では、本年4月より、ビジネスの世界でグローバルに活躍できる人材の育成を目指して、Global Passport Program (GPP) という100%英語によるプログラムを開設いたします。これは、3・4年生の希望者の中から学業成績とTOEFLのスコアをもとに選抜された学生が、コースワークで学んだ理論を踏まえ、外国人講師が指導する演習形式のワークショップで実践的な問題を検討し、海外交流の場などで成果を発表するというもので、所定の単位を取得した学生には学部長から認証を与えます。

こうした教育を通して、商学部では、今後も会計実務の世界で中心的役割を担う人材を輩出していきたいと考えております。



## 日本公認会計士協会会長に就任して

昨年7月に日本公認会計士協会会長に就任しました。慶應義塾出身者では、24年振りの会長就任になります。慶應義塾関係者、公認会計士三田会の皆様、よろしくお祈りします。

我が国の公認会計士制度は、昭和23年(1948年)の証券取引法の改正により、投資者保護のための財務書類に係る監査証明制度が導入され、それを担う制度として、公認会計士法が制定されたことに始まります。また、同年、これまで、記帳業務、税務申告代理等の会計業務を担ってきた計理士制度を規律する計理士法が廃止され、公認会計士法に吸収されました。公認会計士は、誕生して66年目になりますが、資本市場の信頼性確保のための監査業務と同時に税務業務をはじめとする会計業務の職業専門家として国民経済を支えることを期待され、日々研鑽を積み、歩んできたと言えます。日本公認会計士協会(以下、協会という。)は、公認会計士の全国単一会組織として、「公認会計士の教養と品位の保持向上に努めるとともに、その自主独立の地位を擁護し、業務の改善進歩を図ること」を目的とし、昭和24年に設立、その後の社団法人化、そして、公的な機能をも担う公認会計士法上の特殊法人として、設立趣旨等を受継ぎ今日に至っています。現在、協会は、公認会計士に登録している会員2万6千人、公認会計士試験合格者をはじめとする準会員7千人の総勢3万3千人を抱え、自主規制機関として会員・準会員の様々な業務を支えています。

昨今の公認会計士を取り巻く環境は、様々な分野で急速に進展しています。

資本市場の信頼性を確保することは、公認会計士に大きな期待を寄せられている分野ですが、企業の会計不正は無くならず、事件が起きると市

場の番人である公認会計士・監査法人に批判が起きます。昨年3月に公表された「監査における不正リスク対応基準」は、不正リスクに焦点を当て、監査基準を整理したのですが、企業統治への留意、職業的懐疑心の強化が主な内容になっており、この3月期から適用されます。監査人は、監査の実効性確保のため、監査役等との連携強化、監査時間の確保、期末監査の十分な日程確保等、今一度原点に戻った見直しが必要です。

我が国の経済再生には、新興国の成長市場の活用、また、それらの我が国市場への取込みが必要といわれていますが、大企業のみならず、中堅・中小企業のグローバル化の推進を図っていかねばなりません。これらの実現にあたって、会計の国際標準化、すなわち、IFRS(国際財務報告基準)の適用は企業の経営管理にとっても極めて有効であり、その拡大を進めていく必要があります。同時にIFRSの基準開発における我が国の影響力の維持・強化が必要です。

また、我が国の道路、橋梁、トンネル等は耐用年数を迎えているものもあり、これからの大規模修繕、再投資等の判断には、財政状態の把握、固定資産台帳をはじめ帳簿の整備が必要であり、地方自治体の公会計改革が始まろうとしています。我が国の財政健全化のためにもこれらの分野における公認会計士の貢献が求められています。

公認会計士は、会計や監査という社会の重要なインフラを任されている重要な資格であり、職業です。昨年7月に協会のタグラインを新しく設定しました。「Engage in the Public Interest-社会に貢献する公認会計士」です。協会はこのタグラインの一層の周知を図り、社会の期待に応え、社会に貢献する会員・準会員を確りと支援していく所存です。



日本公認会計士協会  
東京会会長

柳澤 義一

昭和54年経済学部卒

## 日本公認会計士協会 東京会会長からのメッセージ

公認会計士三田会の皆様、昨年6月より日本公認会計士協会東京会会長に就任しました公認会計士の柳澤義一です。日本公認会計士協会東京会とは、東京会と言いながら、東京都のみならず一都八県(埼玉、千葉、茨城、栃木、群馬、新潟、長野、山梨)の地域を所管し、会員は全国の2/3以上にあたる2万人の会員を擁する日本公認会計士協会の中の最大の地域会です。たまたまですが、日本公認会計士協会本部会長の森さんも同じく三田会ということで、本部、東京会ともに会長が三田会ということになりました。とともに公認会計士業界において、協会の役員をはじめいろいろな機関や立場でご活躍されている慶応出身の公認会計士の方が非常に多く、同じ三田会として大変嬉しく思っております。

さて昨今の公認会計士業界の特徴は、求められる業務の高度化、複雑化に伴い、一定のチームを持って行う仕事が大半となり、事務所の形態としても監査法人の規模や数が大きくなり、全国では200以上の監査法人があり、若手の多くの方は監査法人所属しているものと思います。企業内で活躍されている公認会計士もまた多くなっています。

一定の組織の中で働く人が増えているからこそ大切なことは、公認会計士として人間性を磨くことだと思います。実は、東京会では様々な活動を通じて、会員同士の交流を目指しています。例えば、野球、フットサル、ゴルフ、剣道、合気道、将棋、囲碁といった様々な趣味の会を催しています。さらに会員から演奏者を募る「東京会音楽祭」も開催しています。また、東京会には東京23区の各区をはじめ32の

地区会がありますが、地区会の中で懇親会活動もさかんです。このように仕事や組織を超えた人と人との交わり、リレーションというものが実は公認会計士としての人間性を磨く一助になるものと思います。

もちろん、そのひとつとして公認会計士三田会のような同窓の輪(和)もとても大切なものとしてあると思います。私も三田会の多くの先輩、後輩の方の方々とお付き合いさせていただき、その絆から様々な面で助けていただいています。

ということで、三田会はもちろんのこと、ぜひ日本公認会計士協会及び東京会の様々な活動にもご参加いただきたいと思います。もし私を見かけたら遠慮なく声をかけてください。何卒よろしく願います。



## 公認会計士としての志

初めまして、今年度より公認会計士三田会に入会させて頂く河内舜(カワチシュン)と申します。私は、新日本有限責任監査法人の監査事業部に所属しております。

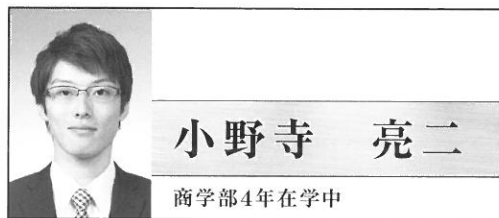
慶應には中等部から入り、中高と野球部に所属していた経験を生かし、大学では中等部野球部のコーチをしていました。その中で、目標に向かって努力をする人をサポートしていくことに強いやりがいを感じていました。私はその経験から、将来は、何らかの専門性を生かして誰かの活動をサポートして、社会に貢献できるような仕事がしたいと思い、公認会計士を目指しました。

公認会計士試験は短答式試験を5月に合格し、8月受験であったため不安もありましたが、無事に突破することができ携帯の画面を見て大声を出してしまうほど嬉しかったです。また家族をはじめ多くの知人が自分のことのように喜んで下さる姿を見て、心配して下さっていたのだと感じ、本当に感謝の気持ちでいっぱいになりました。

会計士は、独占業務として会社から独立した立場で、第三者の期待する公正な監査を行うことが期待されている存在であり、一方で、クライアントのコンサルタントとしてクライアントの発展のために適切なアドバイスを行うことが期待される存在でもあると考えています。どちらも社会的信頼性を維持した上で成り立つものであり、信頼を裏切らない専門的知識とスキルを身につけて、クライアントをサポートし、結果として社会に貢献できる仕事をするのが求められていると考えています。

私は、この会計士の一人として自信をもって業務できる自分を目指します。すなわち、会計士として幅広い見識を持つと同時に、組織内外問わず信頼され、誰にも負けない専門分野を持ってどんなことでも相談して頂ける会計士を目指して行きたいと考えています。また、クライアントから相談頂いた内容に適切にアドバイスするとともに、何らかの付加価値をプラスできるような会計士を目指したいと思います。そして、仕事を通して、クライアントや社会の発展に少しでも貢献できることを願っています。

拙い文章でしたが、ご精読ありがとうございました。



## スタートラインに立って —これから目指す姿—

私は大学入学後の平成22年8月に公認会計士試験勉強を開始し、三回の短答式試験、及び、一回の論文式試験を経て、平成25年11月の合格発表を迎えました。長期的なモチベーション管理が求められる資格試験であり、大学の学業や、友人との交流等のタイムマネジメントも不可欠でした。そのような意味で、大学の学業と同時に、約三年間の試験勉強を行うことは、たしかに困難だったと感じます。しかし今日、公認会計士に対する社会的期待が高まり、それに伴って、業務範囲は拡大しており、これからの職業的魅力はより一層高まると考えます。

不肖ながら、これからの自身の目指す姿について述べたいと思います。今日では、市場環境や公認会計士を取り巻く環境が日々大きく変化するため、当該変化を適切に見極め、対応できる人材でありたいと考えます。アジアや南米をはじめとした市場の成長や、それに伴う日本企業の進出等による会計監査の必要性が増大することが考えられます。また、IFRSへの対応等、我が国の会計基準のみならず、各国の商慣習を踏まえた会計処理の理解が求められるでしょう。このように、日々変化する環境に臨機応変に対応し、自分がどのように行動すべきかを考え、行動し、機会を掴めるような準備を常に怠らない人材でありたいと思います。

また、職業的専門家として、社会的信頼性が特に重要であると考えます。財務諸表利用者のみならず、クライアントに信頼されなければ、有用な監査証拠を得るための資料を提供してもらえない可能性があります。

逆に、クライアントとの信頼関係を構築することによって、より適切な潜在的ニーズの把握等につながります。したがって、監査人としての独立性を保つ一方で、クライアントに信頼され、高品質なサービスを提供できる人材になりたいと考えます。

最後になりますが、現在、実務補習所に通い会計監査等の実務を学ぶ中で、改めて、「継続的な専門能力の向上と知識の蓄積」の必要性を感じています。これからも、信頼される会計士として、社会的インフラを担う一個人として、日々精進し続けたいと考えています。皆様の変わらぬ御指導御鞭撻の程、何卒、宜しくお願い致します。





## よろしくお願ひします!

はじめまして。この度、あずさ監査法人に入所いたしました駒 貴彰です。

私は、千葉県の柏市出身で、慶應志木高等学校の内部推薦で慶應義塾大学に進学しました。スポーツが好きで中学生の頃からバスケットボールをやっております。今でも、入所先のあずさ監査法人のバスケットボールチームに参加させていただいており、年に何回か他の監査法人のバスケットボールチームとも練習試合をしております。

思い返せば、私が公認会計士の資格の勉強を始めたのも、高校のバスケットボール部の同期と会計の専門学校の説明会に参加したのがきっかけでした。そこで、公認会計士の業務の専門性、また業務の選択の多様性などを知りました。当時から漠然と、将来は、自分の個性・能力を発揮しながら仕事をしたいという想いが強かったため、公認会計士という会計のプロフェッショナルとして仕事をするため、勉強を始めました。

今後の抱負ですが、将来私はただ単に会計の知識をたくさん知っている公認会計士ではなく、なにか新しいものを生み出すことのできる創造性をもった公認会計士になりたいと考えております。現状においても会計のソフトやITの発達は著しいものがありますが、今後10年、20年後には今よりも何倍ものスピードで進化していると思います。それによって、誰でも簡単に会計のことを知ることができるようになるため、“知識”自体の価値は相対的に低下すると思われまふ。これは同時に、ただ単に会計の知識を詰め込んだだけの公認会計士の価値も相対的に低下していくのではない

か、今後の公認会計士には、知っている知識以上の価値をアウトプットすることが求められていくのではないかと考えております。

最後になりますが、高校・大学の同期、また入所してからも多くの慶應義塾大学出身の公認会計士にお会いしました。そのたびに、慶應義塾大学のネットワークの強さを感じまふ。まだまだ、人間としても公認会計士としても未熟ではありますが、様々なことにチャレンジしていき、早く社会に貢献できるよう精進して参りたいと思ひまふ。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

## 《公認会計士試験の状況 平成25年度》 —— 連続39年間、合格者数首位を堅持 ——

平成25年公認会計士試験は、平成25年11月15日に合格者が発表されました。

平成25年の公認会計士試験は、願書提出者総数13,224人、論文式受験者数3,277人、最終合格者数1,178人となっています。合格率は8.9%でした。このうち、慶應義塾出身の補習所登録者数は121人であり、2位早稲田の93人に28人の差で首位となりました。これにより、慶應義塾は旧試験制度から39年間連続して、公認会計士試験の王座を獲得しました。

今後も合格者数首位を目指して、塾出身の受験者の確保と合格率上昇のためのバックアップを一層強化できるよう、関係各位のご協力をお願い申し上げます。

### 【平成25年公認会計士試験の概要 短答式試験受験者等対象】

願書出願者総数	13,224人(前年17,894人)
短答式合格者数	1,766人(前年1,274人)
最終合格者数	1,178人(前年1,347人)
合格率	8.9%(前年7.5%)

### 【主な大学の合格者数(公認会計士三田会調べ)】

慶應義塾121名、早稲田93名、中央77名、明治68名、同志社49名、神戸36名、東京33名、関西学院32名、京都31名、青山学院26名、立命館26名

以上

## 公認会計士第2次試験及び公認会計士試験 大学・年度別合格者数一覧表

公認会計士三田会調べ

年次	順位	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
1	昭和45年度 (1970)	慶應義塾 39	中央 29	早稲田 26	東京 12	一橋 9	明治 9	神戸 8	同志社 8	横浜国立 7	関西 4
2	昭和46年度 (1971)	中央 51	早稲田 38	慶應義塾 28	明治 22	横浜国立 14	東京 8	神戸 8	同志社 7	京都 5	大阪市立 4
3	昭和47年度 (1972)	慶應義塾 48	中央 47	早稲田 32	明治 17	東京 13	神戸 11	京都 10	一橋 9	横浜国立 6	同志社 5
4	昭和48年度 (1973)	慶應義塾 42	早稲田 30	明治 18	中央 16	一橋 11	東京 9	日本 8	法政 5	横浜国立 2	立教 1
5	昭和49年度 (1974)	中央 65	慶應義塾 61	早稲田 42	明治 25	東京 10	一橋 8	横浜国立 8	法政 7	立教 5	-
6	昭和50年度 (1975)	慶應義塾 32	早稲田 22	中央 16	明治 16	東京 9	日本 6	法政 5	一橋 3	-	-
7	昭和51年度 (1976)	慶應義塾 50	早稲田 44	中央 29	明治 28	一橋 14	日本 8	法政 6	横浜国立 6	立教 6	東京 5
8	昭和52年度 (1977)	慶應義塾 45	早稲田 44	明治 30	中央 26	一橋 13	日本 7	東京 6	法政 6	立教 6	横浜国立 5
9	昭和53年度 (1978)	慶應義塾 39	早稲田 37	中央 34	明治 13	一橋 6	東京 6	法政 5	横浜国立 5	立教 3	日本 2
10	昭和54年度 (1979)	慶應義塾 36	早稲田 29	中央 23	明治 14	一橋 9	法政 8	東京 5	横浜国立 5	立教 5	日本 5
11	昭和55年度 (1980)	慶應義塾 30	早稲田 30	中央 27	明治 17	一橋 9	横浜国立 8	法政 5	東京 3	立教 3	-
12	昭和56年度 (1981)	慶應義塾 26	早稲田 24	中央 20	明治 13	一橋 10	横浜国立 7	東京 6	法政 6	日本 3	立教 2
13	昭和57年度 (1982)	慶應義塾 26	早稲田 18	明治 16	横浜国立 14	中央 11	一橋 8	東京 5	法政 4	立教 4	日本 1
14	昭和58年度 (1983)	慶應義塾 39	早稲田 34	中央 20	明治 19	横浜国立 9	法政 8	一橋 8	東京 5	立教 5	日本 2
15	昭和59年度 (1984)	慶應義塾 54	早稲田 40	中央 27	明治 20	一橋 12	横浜国立 11	東京 8	法政 6	日本 6	立教 3
16	昭和60年度 (1985)	慶應義塾 53	早稲田 36	中央 21	明治 19	一橋 13	法政 12	横浜国立 10	日本 9	東京 9	立教 2
17	昭和61年度 (1986)	慶應義塾 63	早稲田 56	中央 40	明治 28	一橋 12	横浜国立 12	東京 14	法政 13	日本 14	立教 4
18	昭和62年度 (1987)	慶應義塾 68	早稲田 49	中央 36	明治 27	一橋 15	横浜国立 15	東京 13	法政 7	日本 7	立教 5
19	昭和63年度 (1988)	慶應義塾 68	早稲田 45	中央 38	明治 23	一橋 18	東京 13	法政 13	横浜国立 10	日本 6	立教 2
20	平成元年度 (1989)	慶應義塾 108	早稲田 67	中央 35	明治 35	東京 26	一橋 18	法政 12	立教 12	日本 11	横浜国立 9
21	平成2年度 (1990)	慶應義塾 111	早稲田 78	中央 46	明治 36	一橋 24	東京 21	横浜国立 18	法政 15	立教 9	日本 8
22	平成3年度 (1991)	慶應義塾 108	早稲田 101	中央 50	明治 45	一橋 32	東京 28	横浜国立 14	法政 10	日本 8	立教 11
23	平成4年度 (1992)	慶應義塾 126	早稲田 110	一橋 46	中央 41	東京 40	明治 36	法政 24	横浜国立 19	立教 14	日本 5
24	平成5年度 (1993)	慶應義塾 109	早稲田 98	中央 46	東京 45	一橋 36	明治 32	法政 13	横浜国立 19	立教 8	日本 15
25	平成6年度 (1994)	慶應義塾 140	早稲田 102	東京 57	一橋 37	中央 29	明治 27	横浜国立 19	法政 14	立教 10	日本 4
26	平成7年度 (1995)	慶應義塾 134	早稲田 134	中央 41	東京 39	一橋 27	明治 22	横浜国立 15	法政 11	日本 8	立教 8
27	平成8年度 (1996)	慶應義塾 115	早稲田 95	中央 39	東京 38	一橋 34	明治 23	横浜国立 22	法政 14	日本 11	立教 4
28	平成9年度 (1997)	慶應義塾 115	早稲田 85	中央 38	東京 33	一橋 26	明治 24	横浜国立 19	法政 14	立教 12	日本 8
29	平成10年度 (1998)	慶應義塾 119	早稲田 97	中央 34	東京 29	明治 28	一橋 21	横浜国立 14	法政 13	日本 12	立教 9
30	平成11年度 (1999)	慶應義塾 133	早稲田 88	中央 47	東京 47	一橋 35	明治 27	法政 23	横浜国立 21	日本 12	立教 11
31	平成12年度 (2000)	慶應義塾 136	早稲田 90	中央 60	東京 50	一橋 35	明治 35	法政 23	立教 18	横浜国立 16	日本 13
32	平成13年度 (2001)	慶應義塾 155	早稲田 134	東京 68	中央 59	一橋 47	明治 42	横浜国立 22	日本 13	法政 11	立教 11
33	平成14年度 (2002)	慶應義塾 183	早稲田 140	中央 94	東京 94	一橋 54	明治 39	横浜国立 23	法政 22	立教 21	日本 16
34	平成15年度 (2003)	慶應義塾 228	早稲田 152	東京 78	中央 76	一橋 71	京都 49	同志社 48	神戸 47	明治 45	大阪 37
35	平成16年度 (2004)	慶應義塾 208	早稲田 153	東京 93	中央 76	神戸 62	明治 60	同志社 56	一橋 56	京都 50	立命館 40
36	平成17年度 (2005)	慶應義塾 209	早稲田 159	中央 106	東京 61	一橋 51	同志社 48	神戸 43	明治 40	関西学院 40	京都 37
37	平成18年度 (2006)	慶應義塾 224	早稲田 146	東京 73	一橋 69	明治 64	同志社 55	早稲田 49	京都 48	神戸 38	関西学院 35
38	平成19年度 (2007)	慶應義塾 411	早稲田 293	中央 150	明治 105	神戸 105	同志社 102	東京 99	一橋 94	京都 73	立命館 71
39	平成20年度 (2008)	慶應義塾 375	早稲田 307	中央 160	東京 114	明治 110	同志社 102	一橋 93	立命館 85	神戸 83	京都 82
40	平成21年度 (2009)	慶應義塾 258	早稲田 247	中央 159	東京 84	明治 72	一橋 56	関西学院 56	神戸 52	同志社 52	法政 49
41	平成22年度 (2010)	慶應義塾 251	早稲田 221	中央 152	明治 98	東京 67	同志社 62	立命館 57	神戸 49	関西学院 46	京都 45
42	平成23年度 (2011)	慶應義塾 210	早稲田 169	中央 96	明治 83	立命館 52	京都 47	一橋 46	東京 44	同志社 38	関西学院 36
43	平成24年度 (2012)	慶應義塾 161	早稲田 109	中央 99	明治 63	同志社 49	法政 38	立命館 30	神戸 29	青山学院 29	東京 28
44	平成25年度 (2013)	慶應義塾 121	早稲田 93	中央 77	明治 68	同志社 49	神戸 36	東京 33	関西学院 32	京都 31	青山学院 立命館 26

## 第37期・平成24年度総会

2013年3月28日木曜日17時30分から、銀座の交詢社において、公認会計士三田会総会を開催しました。

本総会において、第37期平成24年度会務報告が実施されました。続いて、会計報告、監査報告が行われ、決算承認が行われました。

任期満了に伴い、新会長として後藤順子君(昭56)が選出され、副会長は、山田辰巳君(昭51)、小坂義人君(昭53)、米田恵美君(平18)が再選されました。幹事も新たに加わり、ますますの隆盛を誓いました。

## 春季研修会

総会に続いて、会員の加藤達也君(昭61)を講師とする研修が行われました。

加藤君は日本公認会計士協会常務理事として継続的職業教育を担当しており、近時の「公認会計士の育成教育・試験制度のあり方について」豊富な知識と的確な現状分析を踏まえた講義を展開しました。会員一同新たな知識を得て公認会計士としての使命も果たしたいと感じております。

## 新人歓迎会

続いて、2013年新人歓迎会を開催しました。

関浩一郎君(平6)の司会により、中村慎助塾経済学部長のご挨拶、樋口美雄塾商学部長の乾杯のご発声を頂戴し、同年7月から日本公認会計士協会会長となる森公高君(昭55)のスピーチに続いて2012年に公認会計士試験に合格した新人の紹介が行われました。

締め「若き血」を奥山健人君(平23)、井上大輔君(4年)の指揮により斉唱し、大塚敏弘君(昭59)の言葉により散会となりました。毎年のごとながら、2次会3次会と遅くまで新人のお祝いをしてくださった会員の皆様、大変お疲れ様でございました。

## 秋季研修会・懇親会報告

2013年10月10日木曜日18時30分から、三田北館ホールにおいて、慶應義塾福澤研究センター准教授、都倉武之先生を講師に迎えて研修を行いました。言わずと知れた「簿記」を日本語で初めて使ったのは福澤先生であります。本研修においては、日本の簿記の始まりから、1940年代の「最後の早慶戦」まで幅広く塾の歴史を学びました。

場所を南校舎4階「ザ・カフェテリア」に移して、懇親会を開催しました。

## 2013年9月7日 早慶対抗ゴルフ

2013年9月7日土曜日、軽井沢72ゴルフ西ゴールドコースにおいて、早慶対抗ゴルフを行いました。強力な新人の加入により勢いづく我が慶應は、宿敵早稲田を粉砕すべく軽井沢に乗り込みました。小雨ぱらつくコンディションと霧による中断がありましたが、塾選手は粘り強く健闘したものの、重馬場に強い早稲田に惜敗（大差だという話も都の西北から聞こえてきます。）しました。その中、エース高濱朋弘君が79という快スコアでベストグロスを獲得し一矢を報いました。

分析：何故早稲田はインコースに強かったのでしょうか？

## 2013年10月5日 第26回CPAゴルフ十月会

2013年10月5日土曜日、軽井沢72ゴルフコースにおいて、大学対抗ゴルフが開催されました。2012年にハンディキャップ戦のネット、そしてグロススコアの部で両方優勝を飾った慶應義塾は幹事校として、前日から入り、早朝から受付に立ち、表彰式を運営しました。

当然連続優勝を狙う我らが慶應は、またも小雨と霧のコンディションに粘り強く立ち向かいました。しかし、やはり重馬場に強い早稲田にグロス、ネットの両方優勝をさらわれて3位5位となったものの、グロス6位までの4名を占めた早稲田に届かず、グロスの部で準優勝となりました。表彰のプレゼンターとして、私たちはタイガーを呼んでおり、受彰者はタイガーとの記念写真で喜んでいただきました。

幹事の重責を果たした監督小坂義人君と運営にご尽力いただいた会員の皆様に御礼を申し上げます。



▲十月会表彰式



▲タイガーとエース増田、働く小坂監督



▲山田元三田会会長とタイガー

役員一覧

役職	卒業年度	氏名
会長	S56年卒	後藤 順子
副会長	S51年卒	山田 辰巳
副会長	S53年卒	小坂 義人
副会長	H18年卒	米田 惠美
幹事	S47年卒	野辺地 勉
幹事	S47年卒	河原 茂晴
幹事	S48年卒	藤田 則春
幹事	S49年卒	梶川 融
幹事	S50年卒	桃崎 有治
幹事	S51年卒	新田 誠
幹事	S51年卒	徳永 信
幹事	S52年卒	小見山 満
幹事	S52年卒	池上 玄
幹事	S52年卒	佐藤 行正
幹事	S53年卒	沼田 徹
幹事	S53年卒	高津 靖史
幹事	S54年卒	柳澤 義一
幹事	S55年卒	市村 清
幹事	S55年卒	森 公高
幹事	S55年卒	永田 高士
幹事	S56年卒	金井 沢治
幹事	S56年卒	澤田 尚史
幹事	S57年卒	関口 弘和
幹事	S57年卒	篠原 真
幹事	S58年卒	上林 三子雄
幹事	S58年卒	山田 雅弘
幹事	S58年卒	油谷 成恒
幹事	S59年卒	澤口 雅昭
幹事	S59年卒	大塚 敏弘
幹事	S59年卒	志村 さやか
幹事	S61年卒	奥村 始史
幹事	S61年卒	海野 隆義
幹事	S61年卒	今村 友妃子
幹事	S61年卒	加藤 達也
幹事	S61年卒	関川 正
幹事	S62年卒	安藤 武
幹事	S62年卒	栗石 博之
幹事	S62年卒	上倉 要介
幹事	S62年卒	若林 健太
幹事	S62年卒	尾立 源幸
幹事	S63年卒	椎名 弘
幹事	S63年卒	佐藤 裕紀
幹事	S63年卒	田中 耕一郎
幹事	S63年卒	岡田 貴子
幹事	S63年卒	岡谷 直人
幹事	S63年卒	中村 元彦
幹事	H11年卒	菅野 雅子
幹事	H11年卒	阪田 大門
幹事	H11年卒	吉田 慶太
幹事	H11年卒	北澄 和也
幹事	H2年卒	茂木 哲也
幹事	H2年卒	高橋 克典
幹事	H3年卒	志賀 恭子
幹事	H5年卒	荒張 健
幹事	H5年卒	百瀬 和政
幹事	H5年卒	古内 和明
幹事	H6年卒	菅谷 圭子
幹事	H6年卒	松本 憲明
幹事	H6年卒	関 浩一郎
幹事	H6年卒	石原 宏司
幹事	H6年卒	曾宮 啓介
幹事	H6年卒	松浦 竜人
幹事	H8年卒	吉川 高史
幹事	H8年卒	長尾 宗尚
幹事	H9年卒	古賀 智彦

役職	卒業年度	氏名
幹事	H9年卒	篠崎 友宏
幹事	H9年卒	三根 大介
幹事	H9年卒	廣野 清志
幹事	H10年卒	江幡 淳
幹事	H12年卒	緒方 浩一
幹事	H12年卒	後藤 昌子
幹事	H12年卒	三好 巧
幹事	H13年卒	齊藤 慶三
幹事	H13年卒	本多 守
幹事	H14年卒	小松 浩幸
幹事	H14年卒	高山 大輔
幹事	H15年卒	根建 栄
幹事	H15年卒	吉田 勇太
幹事	H15年卒	荻野 尚武
幹事	H15年卒	小川 雅嗣
幹事	H15年卒	野池 毅
幹事	H15年卒	双木 宏
幹事	H15年卒	藤本 ひかり
幹事	H15年卒	濱 貴之
幹事	H15年卒	荒井 悠己
幹事	H16年卒	和田 拓郎
幹事	H16年卒	並木 俊朗
幹事	H16年卒	門澤 麻里
幹事	H16年卒	上平 洋輔
幹事	H16年卒	新井 佑介
幹事	H16年卒	佐藤 彩子
幹事	H16年卒	英 正樹
幹事	H16年卒	齋藤 啓太郎
幹事	H17年卒	門田 美由紀
幹事	H17年卒	渋谷 寿彦
幹事	H17年卒	荒井 是憲
幹事	H18年卒	天野 真衣
幹事	H18年卒	清水 麻奈美
幹事	H18年卒	吉川 恵理
幹事	H19年卒	幡野 裕明
幹事	H20年卒	中谷 恵理子
幹事	H20年卒	清水 陽一郎
幹事	H20年卒	土井 さやか
幹事	H20年卒	佐藤 拓路
幹事	H21年卒	宮山 韓知
幹事	H21年卒	善林 優子
幹事	H22年卒	上田 彩夏
幹事	H22年卒	渡部 亮
幹事	H23年卒	今野 洋
幹事	H23年卒	芝 由里子
幹事	H23年卒	田中 隆寛
幹事	H23年卒	高野 阿弓
幹事	H23年卒	清水 裕文
幹事	H23年卒	奥山 健人
幹事	H23年卒	渡邊 三南子
幹事	H23年卒	津田 覚
幹事	H24年卒	富取 祐香
幹事	H24年卒	神原 大樹
幹事	H24年卒	徳田 華子
幹事	H24年卒	矢島 淳太郎
幹事	H24年卒	藤野 里奈
幹事	H24年卒	葦澤 一平
幹事	H24年卒	菅原 晃介
幹事	H24年卒	細野 光史
幹事	H25年卒	田宗 千明
幹事	在学中	浦山 太貴
幹事	在学中	濱田 浩介
幹事	在学中	井上 大輔
会計監事	S52年卒	山崎 博行
会計監事	H14年卒	黒澤 久美子

役職	卒業年度	氏名
年度世話人	S50年卒	桃崎 有治
年度世話人	S60年卒	渡辺 伸啓
年度世話人	S60年卒	古杉 裕亮
年度世話人	S60年卒	山本 美晃
年度世話人	H7年卒	森田 健司
年度世話人	H7年卒	森谷 健
年度世話人	H7年卒	荒谷 繁
年度世話人	H7年卒	難波 隆豪
年度世話人	H7年卒	北村 崇
年度世話人	H17年卒	加来 義智
年度世話人	H17年卒	齊藤 雄一
年度世話人	H17年卒	門田 美由紀
年度世話人	H17年卒	渋谷 寿彦
年度世話人	H17年卒	荒井 是憲
年度世話人	H17年卒	高梨 良紀
年度世話人	H17年卒	渡辺 一生
新人世話人	H16卒	赤羽 悠二
新人世話人	H16卒	袖野 慶二
新人世話人	H16卒	依田 知明
新人世話人	H22卒	澤崎 萌
新人世話人	H25卒	近藤 祐章
新人世話人	H25卒	佐藤 佳樹
新人世話人	H25卒	長野 早紀
新人世話人	H25卒	山縣 奈央
新人世話人	H25卒	浅見 理紗子
新人世話人	H25卒	上條 有佳里
新人世話人	在学中	有馬 良騎
新人世話人	在学中	内藤 翔斗
実行委員	H13卒	国見 健介
相談役	S25年卒	西谷 誠一
相談役	S26年卒	向山 清志
相談役	S30年卒	村山 徳五郎
相談役	S30年退	宇野 皓三
相談役	S34年卒	森重 榮
相談役	S36年卒	野田 晃子
相談役	S41年卒	石井 清之
相談役	S42年卒	青木 雄二
相談役	S42年卒	一法師 信武
相談役	S42年卒	杉山 美代子
相談役	S43年卒	湯佐 富治
相談役	S45年卒	山田 幸太郎
相談役	S46年卒	佐竹 正幸
相談役	S49年卒	加藤 晶春

# 公認会計士三田会・会則

制定 昭和52年9月1日  
 改正 昭和55年1月21日  
 改正 昭和58年1月10日  
 改正 昭和61年1月17日  
 改正 平成15年1月29日  
 改正 平成15年12月4日  
 改正 平成20年1月30日  
 改正 平成23年12月14日

## 第1章 総 則

(名 称)

第1条 本会は、公認会計士三田会と称する。

(目 的)

第2条 本会は、会計及び監査に関する学術の研究、会員の知識及び経験の交流、業務の協調、会員相互の親睦並びに後進の指導育成等を図ることを目的とする。

(事 務 所)

第3条 本会の事務所を、幹事会の指定する場所に置く。

(事 業)

第4条 本会は、第2条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- 1、会計及び監査の実務、学術等に関する研究会、講演会等の開催
- 2、内外の資料の調査、研究
- 3、業務情報の交換
- 4、会報その他刊行物の発行
- 5、その他前各号に附帯する事業

## 第2章 会 員

(会 員)

第5条 慶応義塾に在学した者で、公認会計士、会計士補、これらの有資格者及び公認会計士試験合格者をもって会員とする。

## 第3章 役 員

(会長、副会長、幹事)

第6条 本会に、会長、副会長、幹事を置く。会長は1名とし、副会長、幹事は若干名とする。

(会計監事)

第7条 本会に、会計監事2名を置く。

(相 談 役)

第8条 本会に、相談役を置くことができる。

(幹事及び会計監事の選出並びに任期)

第9条 幹事及び会計監事は、会員のうちから定時総会において選出する。

- 2、幹事及び会計監事の任期は、定時総会のときから始まって、就任後第2回目の定時総会終了のときまでとする。

(会長、副会長、相談役の選任)

第10条 会長、副会長は、幹事の互選により選出する。相談役は、会長が指名する。

## 第4章 総 会

(総会の種類)

第11条 総会は、定時総会及び臨時総会とする。

(総会の開催)

第12条 定時総会は会計年度終了後5ヶ月以内に、臨時総会は必要に応じ、幹事会の議を経て会長が招集する。

## 第5章 会 計

(会 費)

第13条 本会の経費は、会費、臨時会費及び寄附金をもってこれに当てる。

- 2、会費は、公認会計士は年額10,000円、会計士補ならびに公認会計士試験合格者は3,000円とする。なお、公認会計士のうち近年に卒業した会員に対して会費を一部減額することを認め、その取扱は幹事会にて決定する。

有資格者の会費については、これに準ずる。

(会計年度)

第14条 本会の会計年度は、毎年1月1日に始まり、12月31日に終わる。

## 第6章 会則の変更

(会則の変更)

第15条 会則の変更は、総会の決議による。

(附 則)

この会則は、昭和52年9月12日から施行する。

(附 則)(平成20年1月30日改正)

第5条、第12条、第13条の改正は、第31事業年度より適用する。

(附 則)(平成23年12月14日改正)

第14条の改正は、第36事業年度より適用する。

www.cpa-mitakai.net



©慶応義塾

**公認会計士 三田会会報【第38号】**

(平成26年3月1日発行 昭和53年1月1日創刊)

**編集発行 公認会計士三田会**  
佐藤裕紀 渋佐寿彦 米田恵美

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-5-1 霞が関IHFビル3F  
佐藤裕紀公認会計士事務所内  
電話:03-6852-6852 FAX:03-6852-6853  
E-mail:sec@keiocpa.com